資料4

食品ロス削減のための
商慣習検討ワーキングチーム

清涼飲料メーカー
食品ロス削減効果等の整理

2018年3月6日（火）

サントリー食品インターナショナル
ジャパン事業本部　ロジスティクス推進部

アジェンダ

（Ａ）納品期限緩和による清涼飲料メーカーでの
食品ロス削減効果測定〈案〉

（Ｂ）賞味期限年月表示化による物流倉庫現場での
オペレーション効率化〈事例紹介〉

（Ａ）納品期限緩和による清涼飲料メーカーでの食品ロス削減効果等の整理〈案〉

効果検証

対象の流通経路	飲料メーカーから 納品期限を緩和頂いた 小売業様の専用物流センター
検証方法	①　納品期限緩和により、従来よりも出荷が可能になった数量割合
	②　上記の具体的商品事例（17年発売新製品）

（A）－①
納品期限緩和により
出荷可能になった割合

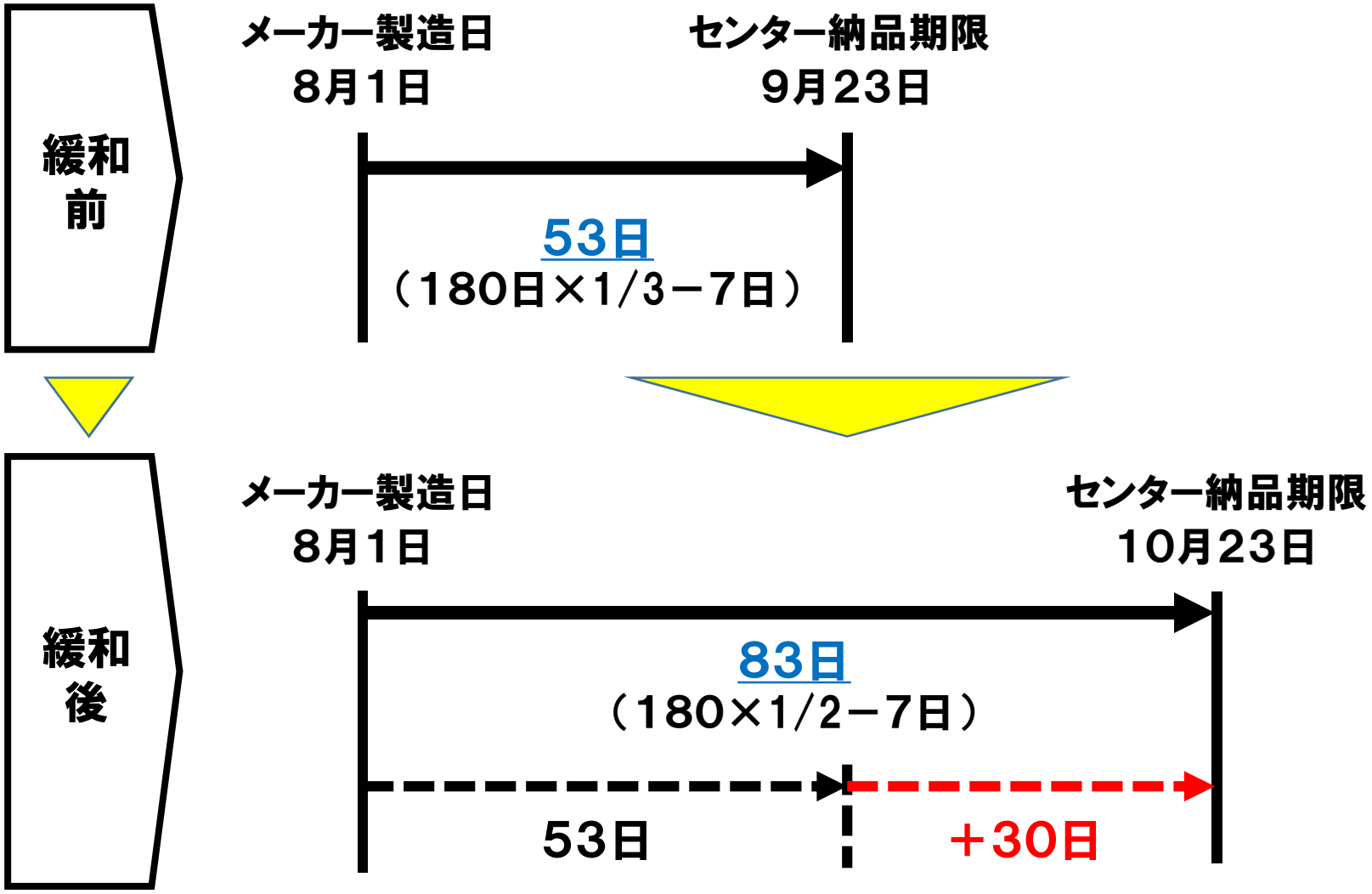
納品期限緩和
効果検証の前提整理

対象期間	「16年9月21日」から「17年9月20日」までの センター納品日実績を対象
対象商品	賞味期間が5ヶ月以上ある全商品
納品期限	各小売様専用センターへの 製造日からN日経過後の納品実績 （弊社出荷システムデータに基づく）

（A）－①
納品期限緩和により
出荷可能になった割合

納品期限緩和により従来よりも出荷可能になった期間〈例〉

例） 賞味期間6ヶ月（＝180日）の商品が、「納品期限2分の1」に緩和された際の日数



（A）－①
納品期限緩和により
出荷可能になった割合

納品期限緩和により従来よりも出荷可能になった数量の割合

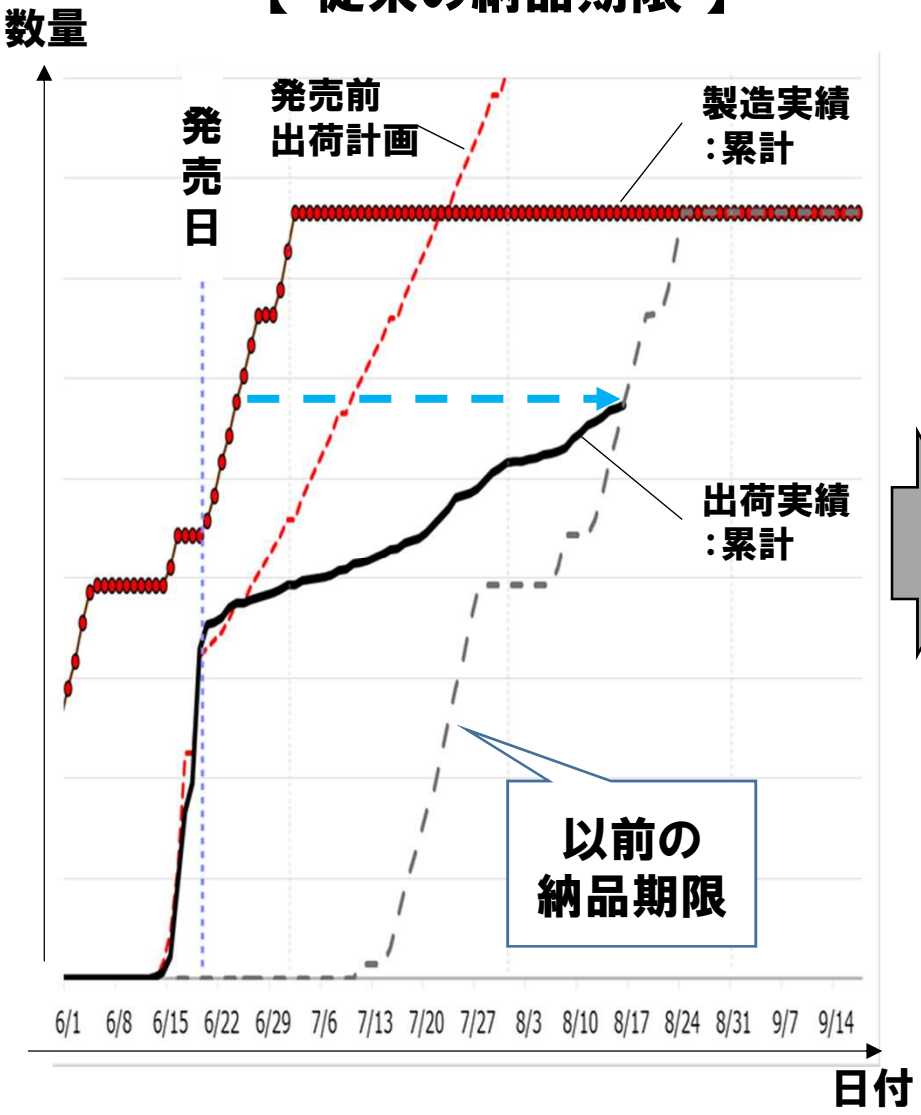
商品の賞味期間	主な商品カテゴリー	従来の納品期限を越えて出荷可能になった数量	
		各賞味における割合（％）	重量（トン）
5－7ヶ月	炭酸、加温販売ペット	4.66%	3,747
8－11ヶ月	緑茶、ニアウォーター、果汁	0.95%	1,258
12ヶ月以上	コーヒー、水（プレーン）	0.28%	810
計		1.04%	5,816

※鮮度期限緩和を実施頂いた小売様専用センターを対象

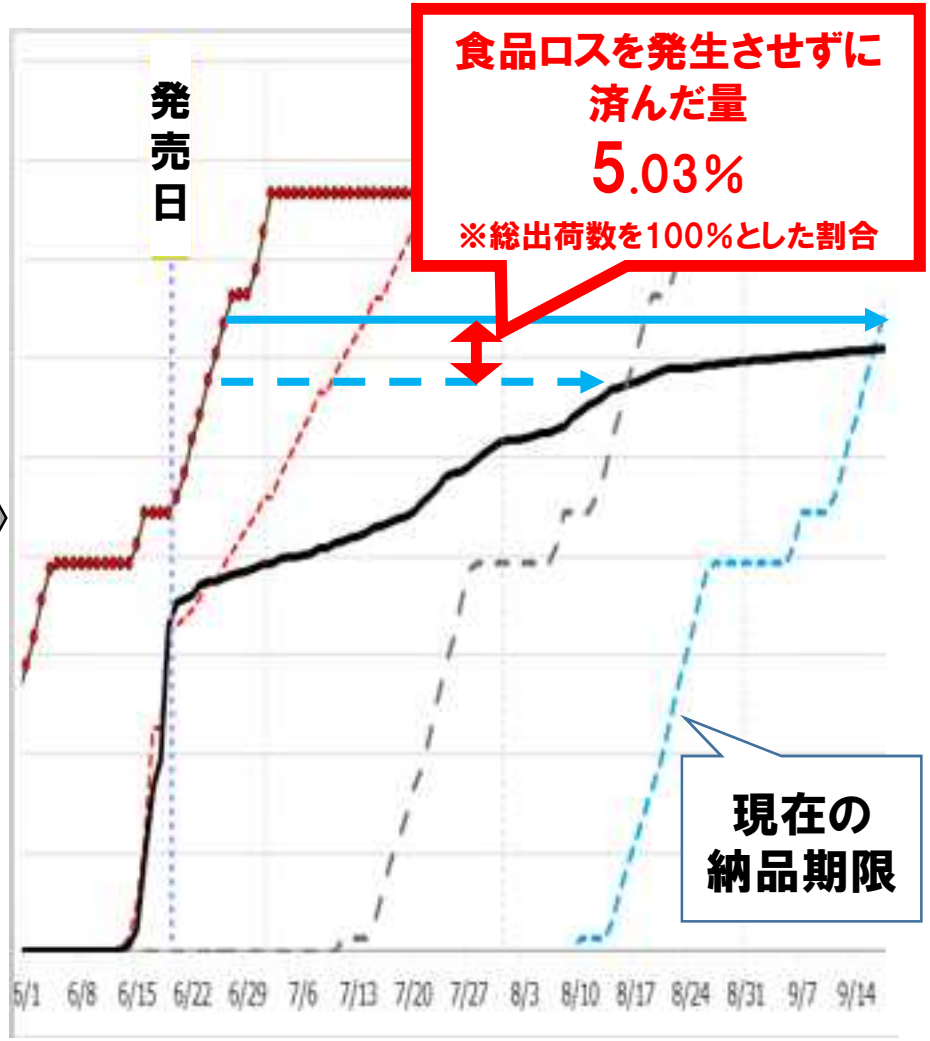
納品期限緩和による効果　具体例

17年6月20日発売　炭酸飲料・新製品（賞味期限6ヶ月）

【 従来の納品期限 】



【 現在の納品期限 】



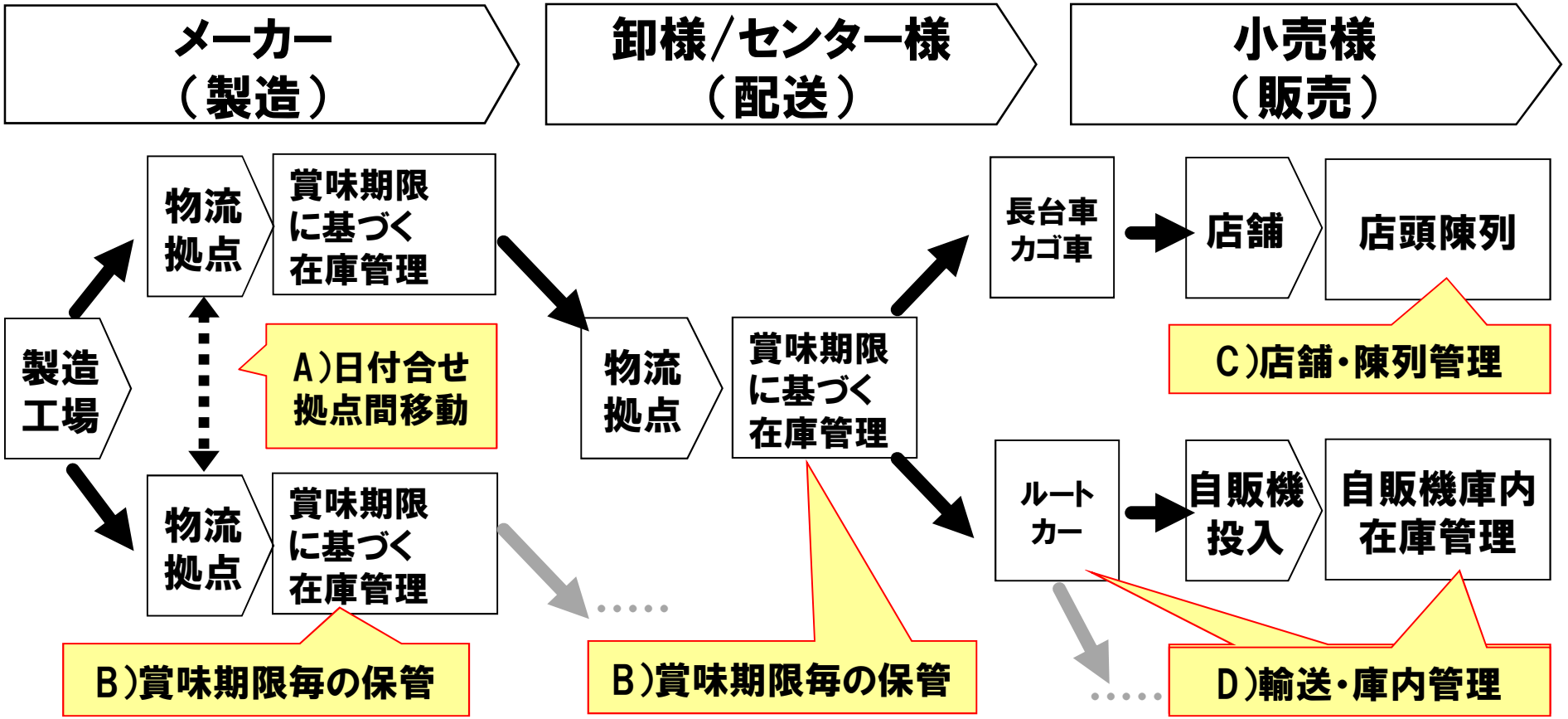
⇒　納品期限延長によって出荷期間が長くなり、食品ロス抑制に大きな効果があった

アジェンダ

（Ａ）納品期限緩和による清涼飲料メーカーでの
食品ロス削減効果測定〈案〉

（Ｂ）賞味期限年月表示化による物流倉庫現場での
オペレーション効率化〈事例紹介〉

賞味期限年月表示化　バリューチェーンにおける期待効果



「製」「配」「販」の『三方良し』に貢献できると期待しています

（Ｂ）メーカー内物流倉庫現場でのオペレーション効率化

〈事例〉

① 倉庫内での保管スペース効率の向上

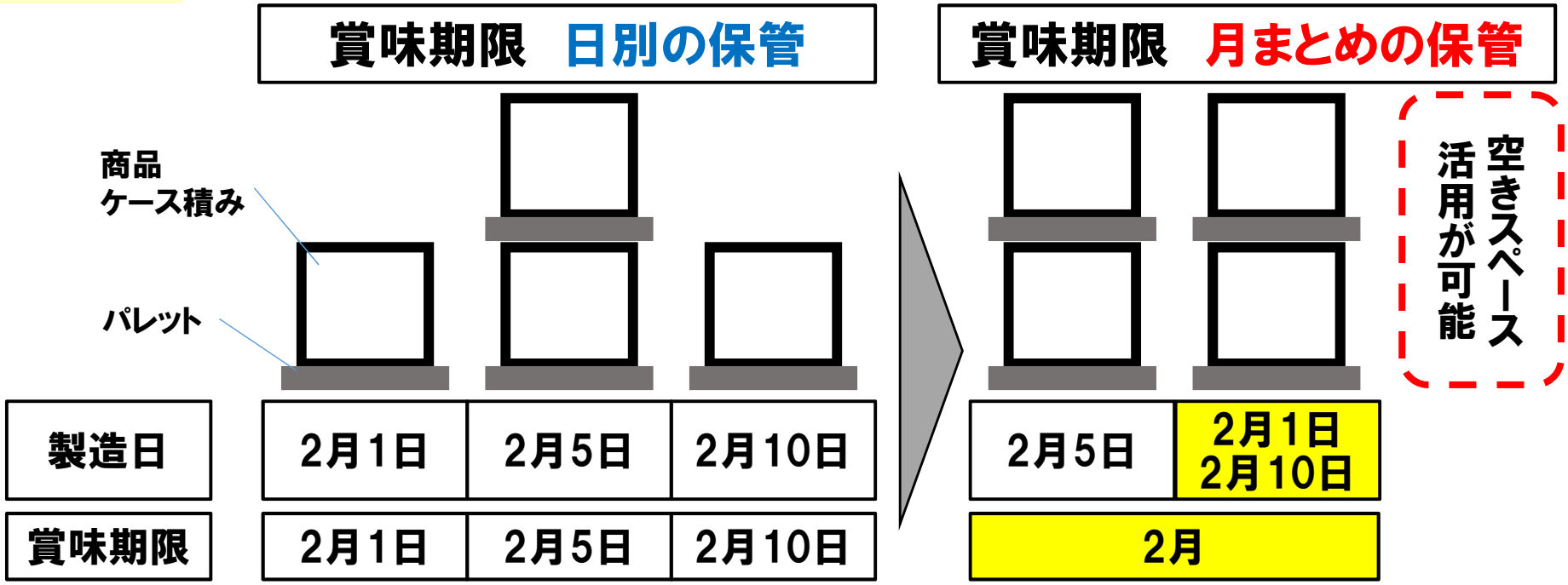
倉庫内ロケーション変更作業の極小化

② フォークリフトの導線短縮

③ 合わせ正パレット作業の極小化

（B）－①
物流倉庫現場
効率化〈事例〉

①倉庫内での保管スペース効率の向上



現場
運用
〈例〉

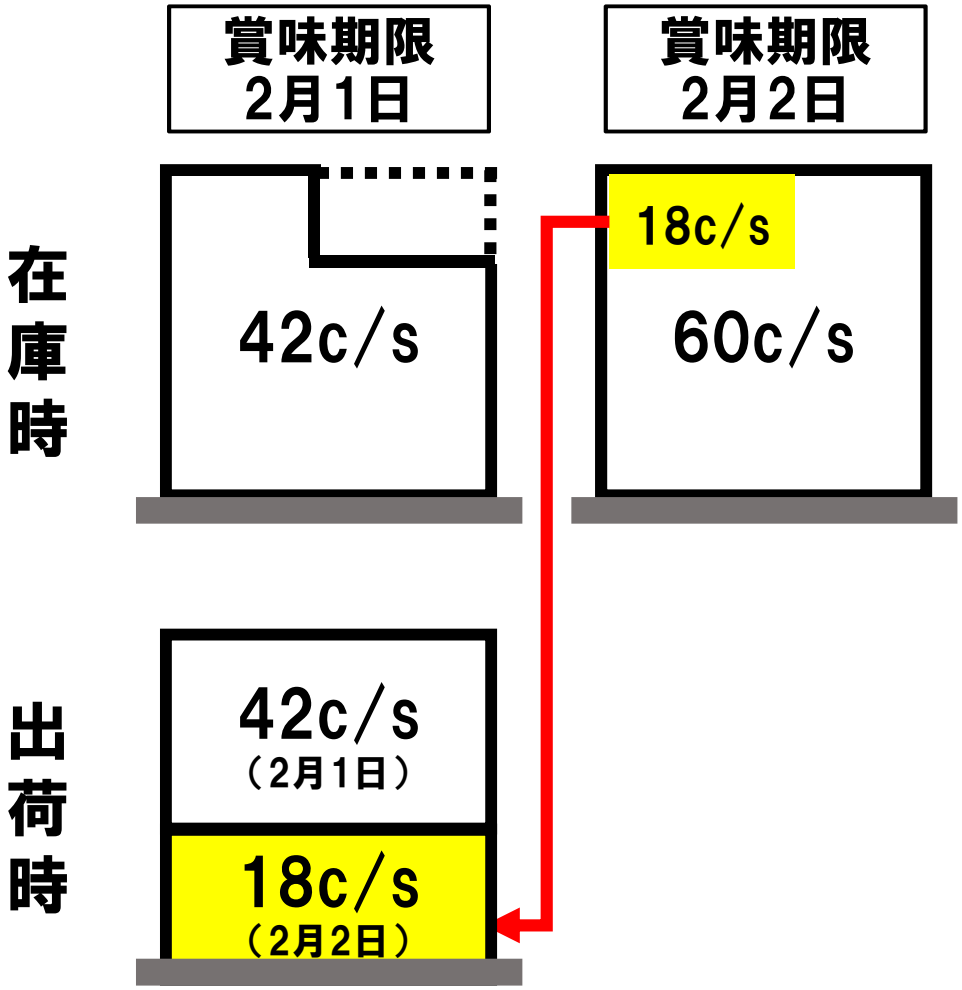
製造日	賞味期限
2月1日	19年2月
2月10日	

②フォークリフトの導線短縮

別製造日・同一ロット商品の
保管場所の効率化

商品のピックアップ時に
移動距離が縮小

③合わせ正パレット作業の極小化



◆賞味期限が『日別』の場合

システム上、
先入先出しに則るため、
パレット単位のご発注の場合、
左図のように出荷時に
積替え作業が発生します。

この作業を
『合わせ正パレット作業』と
呼んでいます。

⇒ 賞味期限『月別』表示により、この積替作業が不要となります。
（上記の賞味期限が全て同じ『月』として管理できる為）

本日共有した内容

（Ａ）納品期限緩和による清涼飲料メーカーでの
食品ロス削減効果測定〈案〉

（Ｂ）賞味期限年月表示化による物流倉庫現場での
オペレーション効率化〈事例紹介〉

以　上